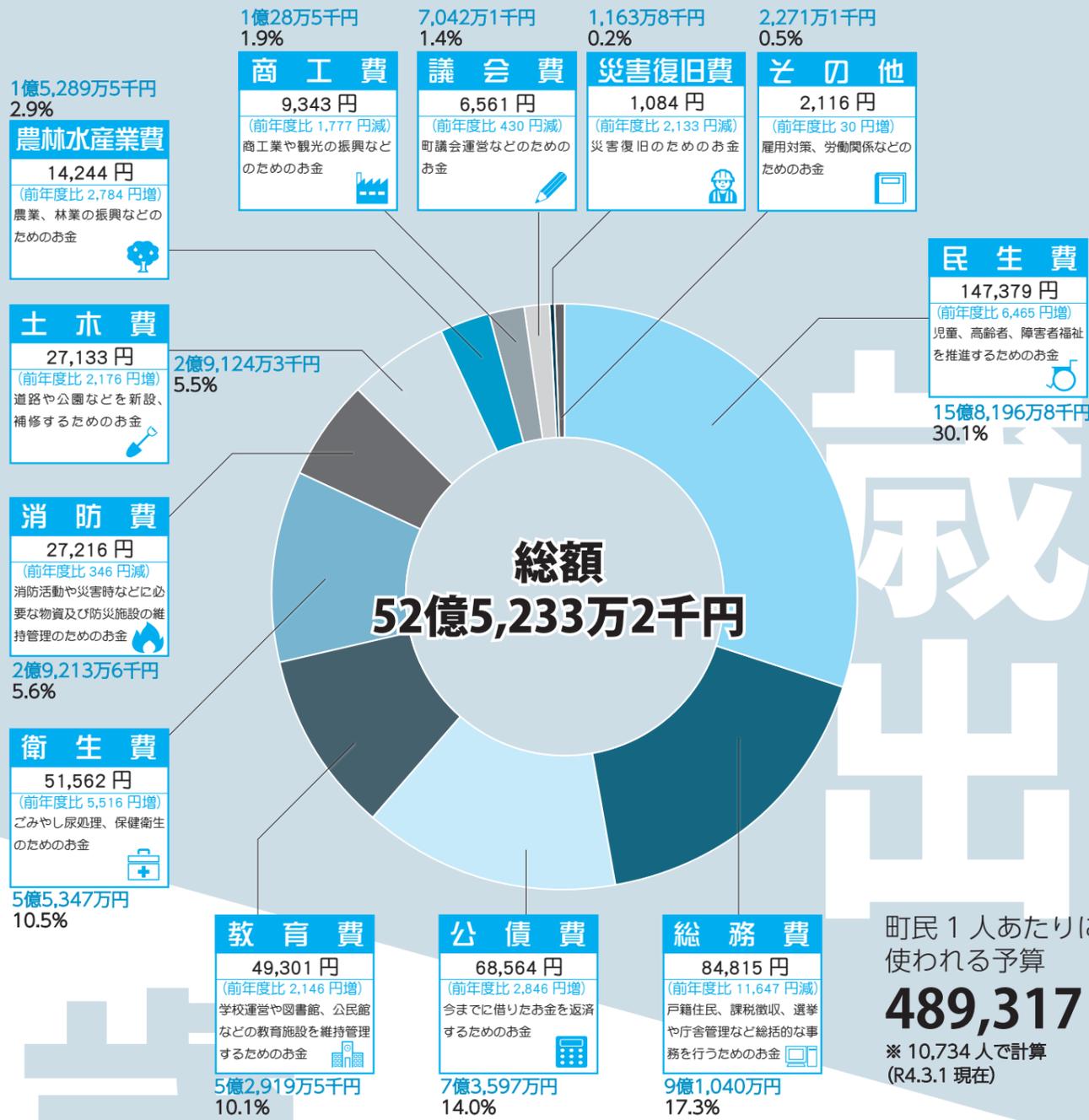
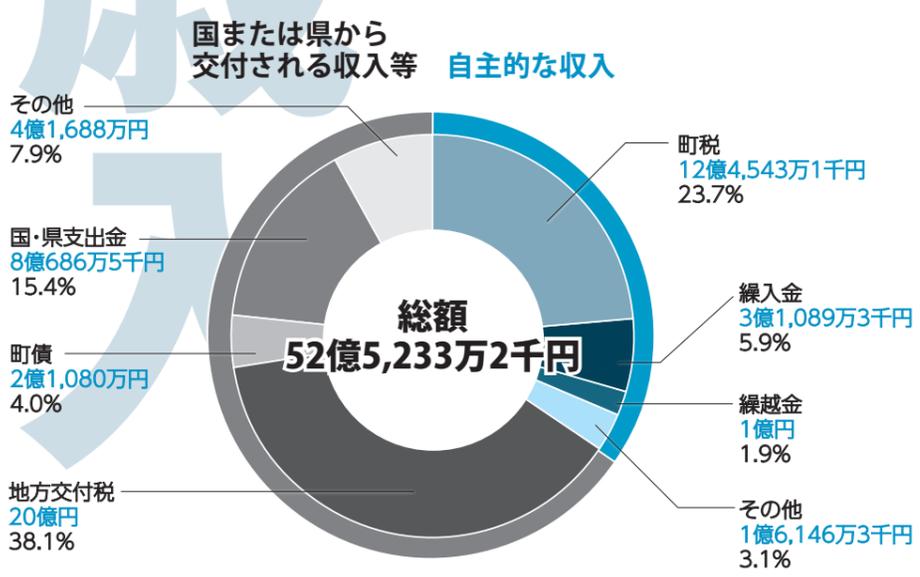


予算と事業

令和4年度当初予算が3月議会で可決されました。
 今月は、その予算と事業の概要についてお知らせします。



町民1人あたりに使われる予算
489,317 円
 ※ 10,734人で計算 (R4.3.1 現在)



町民1人あたりの町税負担額
116,027 円
 ※ 10,734人で計算 (R4.3.1 現在)

固定資産税 前年度比 2,125 円増 61,357 円	町民税 前年度比 2,081 円増 44,982 円
たばこ税 前年度比 259 円増 5,590 円	軽自動車税 前年度比 168 円増 4,098 円

令和4年度の一般会計当初予算の総額は、52億5,233万2千円で、令和3年度の52億6,253万2千円と比較して、1.020万円(△0.2%)の減額となります。その主な理由は、道路改良等の工事や業務委託の減小などによるものです。

令和4年度は、「食と教育で選ばれるまち」「高齢者にやさしいまち」「地域力を生かした安心安全なまち」「人口増加のまち」「女性が輝くまち」「SDGs環境に配慮した持続可能なまち」を重点施策として取り組みます。

「食と教育で選ばれるまち」として、人が生きていくうえで食を切り離すことはできないことから、食育を充実させ教育環境の充実を図ることで、結果的に、住みやすい・住んで良かった町につながっていきます。

「町民自慢の観光のまち」として、ときがわ町の特徴のひとつが、町の自然を生かした観光です。観光は町外の人がかりが楽しむものではなく、町民も楽しめるものがあるべきです。自然の良さ、ありがたさを町民一人ひとりが楽しみ、感じ、それを発信し、それぞれが観光大使となっていきたいと思います。そうして交流が活発となり、活気あふれる町にしていきたいと考えています。

高齢者にやさしいまち」として、高齢化が進行する中において、心配されるのは引きこもりや寝たきりになってしまふことです。健康に、元気に生活できれば怖いものではありません。そのためには、高齢者に寄り添ったまちづくりをしていくことが一番の対応策だと考えています。

「地域力を生かした安心安全なまち」として、有事の際に必要なのは地域の助け合いです。昨年末と2月に、立て続けに起こった大野市内の住宅火災では、地域で組織する自主防災組織や近所の方の尽力により被害は最小限に抑えられ、その後の対応でも力を発揮していただきました。こうした助け合いが機能して初めて安心して住み続けることができます。ときがわ町では現在人口減少、高齢化によりこの地域力が危機に瀕しています。もう一度地域力の向上に取り組みます。

「人口増加のまち」として、ときがわ町は4月1日に過疎地指定されました。一番の要因は人口減少です。この流れを絶つためにも、指定による支援措置を最大限に活用し、一日でも早く指定が解除されるよう努めます。

「女性が輝くまち」として、人口の約半数は女性が占めています。人々がそれぞれの特性を活かし、助け合い協力し合った社会を醸成することはお互いにとって必要

用語の解説

- ◆ **一般会計** 地方公共団体の行政運営の基本的な経費を計上した会計
- ◆ **特別会計** 地方公共団体が特定の事業を行う場合、特定の歳入を特定の目的の歳出に充て経理する必要がある場合、一般会計とは区分して収支経理を行う会計
- ◆ **地方交付税** 国が地方公共団体に対して、国が徴収した税金の一部を、使い道を指定せずに交付するもの
- ◆ **国・県支出金** 国・県が地方公共団体に対して、使い道を指定して交付するもの
- ◆ **繰越金** 前年度の収入と支出の差額を繰り越すもの
- ◆ **繰入金** 基金や他会計から収入するもの
- ◆ **町債** 町が借り入れるお金

なことです。そのためには、今以上に女性の視点が重要となります。女性も男性も同じように活躍する町を目指します。

最後に「SDGs環境に配慮した持続可能なまち」として、大量生産大量消費の社会が招いた状況は皆さんもご存じだと思います。この環境を改善し、どのように次世代に引き継ぐのが、今の我々に問われています。胸を張って次世代に受け渡すために今行動を起こさなければなりません。そのために出来ることを精一杯取り組みます。